

地震編 「地震速報」を見聞きしたとき

今年の5月には能登半島沖などで大きな地震が多発していますが、その際に能登地方を中心に地震の揺れを感じる前に緊急地震速報が気象庁から発表されたのをご存知ですか。

この情報を見聞きしてから地震の強い揺れが来るまでの時間は数秒から数十秒しかありません。その短い間にあなたは「どのような行動」をとりますか。

1. 緊急地震速報

緊急地震速報（警報）とは

気象庁は、2か所以上の観測所で地震波を観測し、最大震度が5弱以上または最大長周期地震動階級が3以上と予想された場合に、緊急地震速報を発表します。

緊急地震速報には「特別警報」「警報」「予報」があり(区分は下表参照)、この内容に該当する地域に対してテレビやラジオ、携帯端末、防災行政無線などで緊急地震速報が流れます。

緊急地震速報（警報）で伝える内容は、強い揺れが予想されていることと、予想されている地域のみが基本です。

地震動の特別警報、警報及び予報の区分及び名称について

区分	情報発表の名称	内 容
地震動特別警報	「緊急地震速報（警報）」	最大震度5弱以上または最大長周期地震動階級3以上の揺れが予想されたときに(※)、強い揺れが予想される地域に対し地震動により重大な災害が起こるおそれのある旨を警告して発表するもの。
地震動警報	又は「緊急地震速報」	このうち、震度6弱以上または長周期地震動階級4の揺れが予想される場合を特別警報に位置付ける。
地震動予報	「緊急地震速報（予報）」	最大震度3以上または長周期地震動階級1以上、マグニチュード3.5以上等と予想されたときに発表するもの。

(※) 2箇所以上の地震観測点のデータに基づく予想

出典:気象庁 HP から引用

緊急地震速報のながれ



専用の音(報知音)

緊急地震速報が発表されたことが即座にわかるよう、テレビやラジオ、携帯電話などでは、専用の音(報知音)と併に緊急地震速報が知らされます。

この報知音は放送局や携帯電話会社などのホームページで試聴することができます。

○ 緊急地震速報の「チャイム音」(NHK ホームページ)

○ 携帯電話各社の緊急地震速報配信に関するホームページ

NTT ドコモ、au、ソフトバンク、ワイモバイルなどのホームページ

令和5年5月1日以降に発表した緊急地震速報

今年になって気象庁が緊急地震速報(警報)を発表した地震については、次のとおりです。

発生日時	震央地名	M	観測最大震度
2023/06/11 18:54	浦河沖	6.2	5弱
2023/05/30 17:49	能登半島沖	4.6	4
2023/05/26 19:03	千葉県東方沖	6.2	5弱
2023/05/22 16:42	新島・神津島近海	5.3	5弱
2023/05/13 16:10	トカラ列島近海	5.1	5弱
2023/05/11 04:16	千葉県南部	5.2	5強
2023/05/10 07:14	能登半島沖	4.9	4
2023/05/09 05:14	石川県能登地方	4.7	4
2023/05/05 21:58	能登半島沖	5.9	5強
2023/05/05 21:58	能登半島沖	5.9	5強
2023/05/05 17:38	能登半島沖	4.3	3
2023/05/05 14:53	能登半島沖	5.0	4
2023/05/05 14:42	能登半島沖	6.5	6強



「防災だより NO. 13」

発行日：令和5年7月

発行者：大矢知地区自主防災協議会

資料:気象庁 HP から作成

2. どのような行動をとったか？

石川県能登地方を震源とする地震が相次いでいます。石川県珠洲市では5月5日午後2時半すぎに震度6強の揺れを、午後10時ごろには震度5強の揺れを観測し、その被害は、1人が死亡、32人がけがをしました。



資料: NHK HP から引用

この地震で揺れの大きかった石川県、富山県、新潟県上中越地域の人達はどのような行動をとったのでしょうか？

【 緊急地震速報では人は動かない 】

同志社大学 心理学部・中谷内 一也 教授：

緊急地震速報が出された時 どの場面でどういう行動が大切か示されていますが、それについても「時間がない中では難しい。シンプルな行動と事前の備えが大切」と話しています。

能登の地震から見えた教訓とは

スマホで緊急地震速報が鳴ったとき、画面に見入ってしまい何もできなかったとの調査結果があります。

調査をしたのは、同志社大学の中谷内一也教授(社会心理学)。5月5日に地震6強を観測した石川県能登地方を震源とする地震で、揺れの大きかった石川県、富山県、新潟県上中越地域の1,620人を対象に、緊急地震速報を受信した後にまず何をしましたかと尋ねた結果は、約8割が防護のための行動をとらなかったとのこと。

緊急地震速報を受信した後の行動

携帯電話の画面を見る	37.0%
揺れを見構えて待つ	22.4%
ただ静観している	10.6%
携帯電話の速報を聞き続ける	8.8%



さらに「次に何をしましたか？」では、具体的な行動をとった人は少数派でした。

危険がないか周囲をチェックする	17.8%
身体の安全を確保する	5.9%
頭を守る	1.5%



資料: 朝日新聞デジタル HP から作成

3. あわてずに、まず身の安全を!!

緊急地震速報を見聞きしたときの行動は、まわりの人に声をかけながら「**周囲の状況に応じて、あわてずにまず身の安全を確保する**」ことが基本です。

では、中谷内一也教授の言われる「シンプルな行動と事前の備え」とはどのような行動でしょうか。

行動の具体例：

周囲の状況により具体的な行動は異なります。日ごろからいざという時の行動を考えておきましょう。

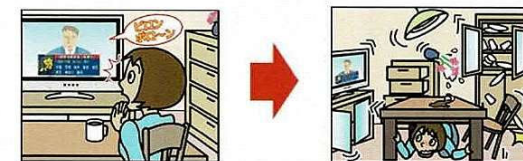
【屋内にいるとき】

○ 家庭では

頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難してください。

あわてて外に飛び出さないでください。

無理に火を消そうとしないでください。



!!強い揺れまでの時間はわずかしかありません!!

○ 人がおおぜいいる施設では

施設の係員の指示に従い、落ち着いて行動し、

あわてて出口には走り出さないでください。



【乗り物にのっているとき】

○ 自動車運転中は

あわててスピードを落とさないでください。

ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意を促してください。

急ブレーキはかけず、緩やかに速度をおとしてください。

大きな揺れを感じたら、道路の左側に停止してください。



○ 鉄道やバスなどに乗車中は

つり革や手すりにしっかりつかまってください。



○ エレベーターでは

最寄りの階で停止させて、すぐに降りてください。



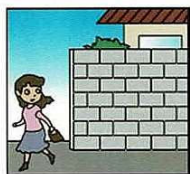
【屋外にいるとき】

○ 街中では

ブロック塀の倒壊等に注意してください。

看板や割れたガラスの落下に注意してください。

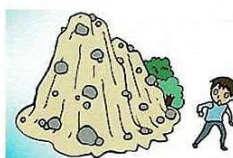
丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に避難してください。



○ 山やがけ付近では

落石やがけ崩れに注意してください。

土砂崩れの危険性があれば、直ちに避難してください。



出典:気象庁 HP から引用

南海トラフはいつ動くのか?

過去の記録を見ると、南海トラフを震源とする地震はマグニチュード8(以下M8と表示)以上の巨大地震が発生しており、今地震が起きると32万人が死亡するといった最悪の被害も想定される超

巨大地震(M9以上)となるとの議論もありますが、超巨大地震の発生も1000年に1回かもしれない、あるいは500年に1回かもしれないとはっきりしていません。

わかっているのは①南海トラフの地震は約100年の周期で発生。②同時若しくは遠州灘から四国沖まで連動するのが普通である。③古文書の記録によれば90年間より短い周期で2回起きたことは歴史上確認できない。④歴史記録のしっかりしている南北朝時代以降で観察すると150年の間に起きなかったことは一度もないことです。

出典:天災から日本史を読み直す(中公新書)から引用

南海トラフ地震の過去事例を

見てみると、その発生過程に多様性があることがわかります。

宝永地震(1707年)のように駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したり、M8クラスの大規模地震が隣接する領域で時間差をおいて発生したりしています。

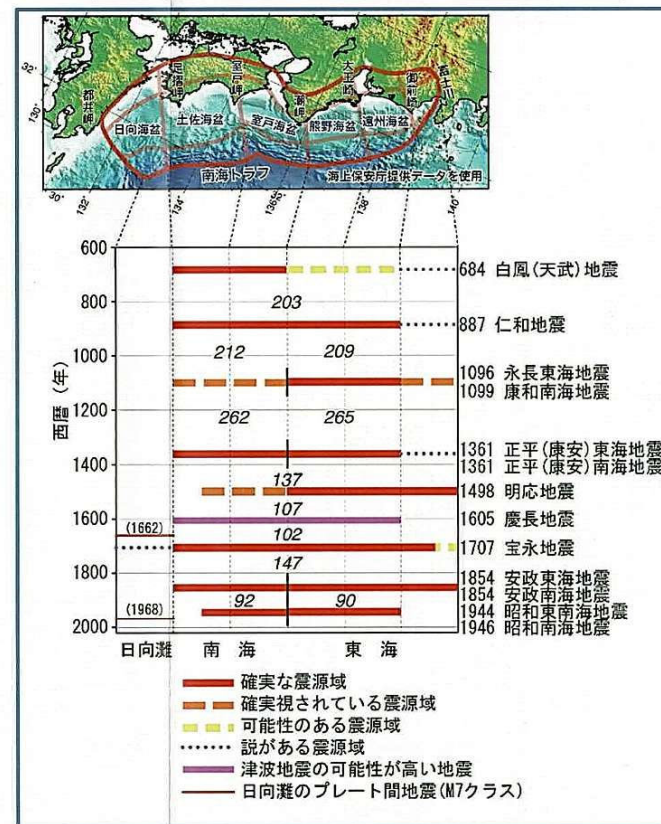
さらに、隣接する領域で地震が続発した事例では、安政東海地震(1854年)の際には、その32時間後に安政南海地震(1854年)が発生し、昭和東南海地震(1944年)の際には、2年後に昭和南海地震(1946年)が発生するなど、その時間差にも幅があることが知られています。

南海トラフ地震は、概ね100～

150年間隔で繰り返し発生しており、

前回の南海トラフ地震(昭和東南海地震(1944年)及び昭和南海地震(1946年))が発生してから70年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。

過去に発生した南海トラフ地震の震源域の時空間分



出典:気象庁 HP から引用